

小児の睡眠時無呼吸

2012年2月

今号は子どもの睡眠時無呼吸症候群を取り上げます。

小児に発症する睡眠時無呼吸症候群は、出生時、特に未熟児で生まれた場合に問題になります。下顎の成長は上顎よりも遅いので、生まれた直後には下顎は小さくて、後退しております。およそ1年で成長が追いつきますが、それまでの間は気道が細く、無呼吸や窒息をおこしやすい状態が続きます。有名な乳幼児突然死症候群の原因にもなります。これに対しては辛抱強く下顎の成長を待つしかありませんが、もし生命の危険がある場合は気管内挿管（呼吸の管を入れる）か気管切開をすることになります。

次の原因は5歳くらいでピークに達する咽頭口蓋扁桃肥大です。これには手術が適応になります。ただ、手術に伴う危険が大きい場合は、小学校の高学年まで待たなければならないことがあります。通常は、治療しないで待ちますが、生命の危険がある場合は気管内挿管や気管切開もあります。成人用のシーパップやマウスピースは顎の成長を妨げるため小児には使えません。

さて治療しないで観察していると、肥満・低身長、夜尿、漏斗胸、アデノイド顔（将来の睡眠呼吸障害の原因になります）、行動面では注意欠陥多動性障害や学習障害が現れることがあります。これらの障害の強さによっては、手術を早めたり、犠牲を覚悟でシーパップやマウスピースを使ったりすることになります。

